

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年十二月度 入選句（投稿総数三千九十三句・一般投句数五百三句）

特選

いつ来ても変らぬ流れ冬桜

安八郡神戸町

澤崎 和子

いつ来ても変らぬ流れは ゆく河の流れは絶えずしてしかもこの水にあらざるの心です。そして本来さくらは春爛漫というイメージのもですが 冬さくらにはその華やかさはなく暗さの中に希望を見出すような佇いを見せる風情を持っています。結びの地の畔の風情をふと想起させる一句となりました。

目立ずに人生仕舞ふ木の葉髪

大垣市

早崎 美弥子

木の葉髪は木の葉の落ちる頃に意識する抜け毛のことを言いますが冬の季節感とあいまって 佇しさを感ずるものとしてこれらの句は人生との係り合いを詠うものが多いです。この句の場合も當つてのふくよかな黒髪への哀愁と目立たず生きる己の心になぞらえて慎ましく詠いあげました。

こたつから出ない方法考える

関市

高井 慧和

文科省推薦とはならない一句かとは思いますが、誰にも経験のある合理的な生活手段をコミックに描いて見せました。本来人間は原始以来頭脳を駆使して合理性を追求して今日の文化を形成してきた生物のようです。

秀逸

子の言葉心に刺さり月を見る

大垣市

岸 久美子

十二月食み出す書き込み手帳かな

瑞穂市

伊藤 恵水

冬ざれや止まりしまゝの古時計

岐阜市

宮西 美代子

躓けば身の毀れゆく寒さかな

東京都世田谷区

関戸 信治

水にうつる橋をこわして鴨の行く

岐阜市

浅野 禎子

時雨去る一筆描きの虹遣し

大垣市

仁村 光生

余生にもときめきありて冬薔薇

愛知県名古屋市

小松 とみゑ

亡き母に似て来し姉やみかん剥く

大垣市

鶴田 信子

身の丈の幸せでよし根深汁

大垣市

新町 恵子

柿むいて吊して母に近づきぬ

和歌山県日高郡

笹野 紀美

入選

抱きし子の日向のにほひ小春かな
北風に足袋を欲しげな芭蕉像
眠るとも醒むるともなき浮寝鳥
大根引老いもなぞへの曲がり角
初冬の波静かな日船の旅
炉開きや山あひに銅鑼五たび鳴り
炭はせて古瀬戸の話など少し
末枯れやひちりきの音の途切れがち
行く秋や糸底磨く亡母の声
人影のなくてさびしき返り花

愛知県名古屋市 舘野 茂子
三重県津市 羽多野 和子
大垣市 棚橋 みさを
福井県敦賀市 山田 美千代
大垣市 高井 光子
岐阜市 小湊 順子
岐阜市 島 めぐみ
岐阜市 伊藤 瑞実
岐阜市 富永 萬里
大垣市 神野 武彦

入選

冬耕の八十路の力侮れぬ
吊し柿作り父のこと母のこと
切り立ちし斜面や紅葉絶景に
手を置けば大樹の冷えの伝ひ来し
繕ひの糸を齒で切る十二月
天守には天守の風よ小六月
柿落葉路地と路地とをつなぐ路地
朝寒や厨にケトルの高鳴りて
断ち割れば大根の透きとほる白
ペダルこぐ少年遠のく秋の暮

養老郡養老町 田中 秀子
大垣市 村田 通夫
大垣市 安田 直隆
安八郡輪之内町 野村 照子
大垣市 秋山 くに子
大垣市 伊藤 明美
大垣市 鶴田 信子
大垣市 新町 恵子
神奈川県横浜市 龍野 ひろし
揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

選者吟

高らかに吾が名を告ぐる初句会

青 志